

KOBELCO

Zero-Emission Crawler Crane

Mastertech 7200G NEO CleAir

[クレア]

200tクラスのクローラークレーンは、いま新しい時代へ進みはじめました
現場の稼働環境を見つめ、私たちがたどり着いたのは有線電動という選択です
目指したのは、エンジン搭載機と変わらない力強い作業性能を発揮しながら
建設現場のゼロエミッションを実現すること
そう、守りたいのは今日の現場だけではない
この先につづく、地球の未来です

さあ、この先に広がる風景を見に行こう



製品サイト



公式WEBサイト



www.kobelco-kenki.co.jp

コベルコ建機株式会社

コベルコ建機 ニュース

Sep. 2026 Vol. 272 夏季号

〒108-8688 東京都港区高輪2丁目22番1号 THE LINKPILLAR 2 コベルコ建設機械ニュース編集部 ☎03-5789-2112

www.kobelco-kenki.co.jp

コベルコ建機株式会社

KOBELCO

夏季号

Sep. 2026 Vol. 272

コベルコ建設機械ニュース



特集 建機を「進化し続けるプラットフォーム」へ
油圧システムの電子制御化で広がる
新型機SK200の可能性

コベルコ建機
公式SNSは
こちらから



X



Instagram



建機を「進化し続けるプラットフォーム」へ

油圧システムの電子制御化で広がる 新型機SK200の可能性

SK200

コベルコ建機は、主力20tクラス油圧ショベルを約10年ぶりにフルモデルチェンジし、新型機「SK200」を8月に発売した。最大の特長は、油圧システムの電子制御化を実現するとともに、OTA(Over the Air)技術を採用したことだ。これにより、施工の自動化や安全性、生産性の向上など、変化する建設現場のニーズに柔軟に対応。さらに、建機導入後もソフトウェアの更新によって機能を拡張することも可能になった。機械を完成品ではなく、「進化し続けるプラットフォーム」と位置付けた新型SK200は、コベルコ建機の新たな価値創造を象徴する一台となっている。

山田高弘 = 取材・文 三浦泰章 = 撮影(P3 および P6～9の人物)
text by Takahiro Yamada / photographs by Yasuaki Miura

その建機は、導入後も成長し続ける

コベルコ建機が満を持して市場に投入した新型ショベル「SK200」。その開発を率いたのが、開発責任者の山下耕治だ。1994年に神戸製鋼に入社後、一貫してショベルの開発、特に電気やソフトウェアの領域を歩んできた。ハイブリッドショベルの開発や、広島大学との共同研究機関の立ち上げにも深く関わり、同社の先進技術の種をまき続けてきた技術者である。

新型SK200開発の原点には、建設業界が抱える課題があった。人手不足や熟練技能者の減少など、現場を取り巻く環境は大きく変化している。

「経験の浅いオペレータでも安全かつ高品質な作業ができる環境づくりが、これからの建設機械に求められる役割だと考えました」

その実現を支えたのが、油圧システムの電子制御化だ。レバー操作をはじめ、機械に入力されるさまざまな情報を電気信号として瞬時に読み取り、高度な制御を行う。この電子制御の導入によって、従来の油圧駆動では難しかった、より緻密で複雑な作業が可能になり、オペレータの能力を最大限に引き出す多様な機能を搭載するための技術基盤が整った。

新型SK200が目指したのは、高性能な油圧ショベルを開発することだけで



はない。コベルコ建機が描いたのは、現場のニーズに応じて新たな機能を追加し、導入後も成長を続ける「建機のプラットフォーム」という発想だった。その中核となるのが、無線通信によりソフトウェアを更新し、機能を拡張できるOTA(Over the Air)技術である。「自動車がアプリの更新によって進化する時代になっているように、建設機械もソフトウェアの書き換えによって性能を向上させ、成長

していく。新型SK200は、そんな新しい時代を切り拓く一台であり、コベルコ建機が描く未来の建設機械の姿を具現化したモデルなのです」

お客様とともに進化する建機へ

新型SK200には単なる新型機の開発を超えた、コベルコ建機の未来像が込められている。その根底にあるのが、「お客様の課題解決に寄り添う建設機械」という考え方だ。

新型SK200には、そうした思想を具現化する多彩な機能が搭載されている。掘削アシストや旋回アシストは、経験の浅いオペレータを支援しながら、熟練者の負担軽減にもつながる。

鳥瞰表示システムや周囲検知警報システム、領域制限機能によって、安全性の向上にも取り組んだ。さらに、操作画面のインターフェースやシート形状に至るまで、長時間作業でも疲れにくい環境づくりを追求している。「重機の遠隔操作システム「K-DIVE®」との親和性が高まり、これまでショベルの大掛かりな改造が必要だった導入作業も、通信機器などを追加するだけで対応しやすくなりました。土木分野だけでなく、今後は建物の解体をはじめ多様な分野への展開も視野に入れています」

さらに、新型SK200はお客様との関係性そのものを変える可能性を秘めている。導入後もソフトウェア更新で機能を追加・改善できるため、現場で生まれた課題や要望を新たな価値として還元し、お客様とともに機械を進化させていくことが可能になる。その先に見据えるのは、建設機械メーカーとしての新しい姿だ。

「これまでは機械を納めたら一区切りでした。でも、これからは違います。実際に使っていただいた声を聞きながら、一緒に製品を育てていく時代になると思っています」

完成した製品を届ける時代から、お客様とともに進化し続けるプラットフォームの構築へ。新型SK200には、現場の課題を新たな価値へと変え、建設業界の未来を支えていこうとするコベルコ建機の挑戦が込められている。

新型ショベルSK200

注目すべき5つの特長

現場で本当に役立つショベルを目指し、生産性・効率性・安全性を追求。新型SK200のこだわりを5つの視点で紹介する。

1 進化する性能

将来的に、さらなる性能の向上が可能に。
機能拡張できるプラットフォーム

ソフトウェアをアップデートすることで、バージョンアップや新しい機能の追加が可能。
導入後も現場のニーズに応えながら、建機そのものが進化し続ける。

基本性能もパワーアップ

油圧システムのセッティングを最適化することにより、燃費性能を向上させた。

掘削性能	最大アーム掘削力	旋回時の加速	高性能エンジン
生産性 [m³/L] 10%UP*	[通常時/109kN] 7%UP* [パワーアップ時/120kN] 7%UP*	旋回トルク 12%UP*	型式: ヤンマー YDR- 4TN107 定格出力: 122 kW / 2,000 min ⁻¹

* SK200-10 比。生産性は燃料1Lあたりの土量（数値は作業条件により変わります）

2 先進アシスト機能

誰もが効率よく作業できる、先進のアシスト機能

日々の作業をより正確かつ効率的行えるよう、多彩なアシスト機能を搭載。オペレータの負担を軽減し、生産性の向上に貢献する。



掘削アシスト機能

アーム引きに連動して、ブーム上げとバケット角度を自動で最適制御。掘削中の土こぼれや車体の浮きを抑え、オペレータの熟練度を問わず、高効率な掘削・積み込み作業を実現する。



旋回アシスト機能

設定ポイントに近づくと自動で減速し、停止をアシスト。旋回操作の負担を軽減し、安定した積み込み作業と作業効率の向上を実現する。

ペイロード

積み込みと同時に積載重量を自動計測するため、過積載を抑え、積み不足による非効率も低減。標準モニターで手軽に設定でき、WEB帳票機能が出来高の計測・管理を支援する。



シングルペダル走行機能

右ペダルを踏むだけで直進走行を実現。レバーを持ち替える必要がないため、自然な操作姿勢を保ったまま、走行と同時にほかの作業を効率よく行える。



ジョイスティック走行機能

左側の操作レバー1つで、前後走行から左右への方向転換が可能。片手でスムーズに操作できるため、長距離の移動でも快適に走行できる。



2DMC / 2DMG

掘り過ぎを抑え、出来形の修正や確認作業の手間を軽減。標準モニターで簡単に設定でき、掘削・整形を効率よくアシストすることで、均一な仕上がりで現場の生産性向上を実現する。

SK200

3

安全補助機能

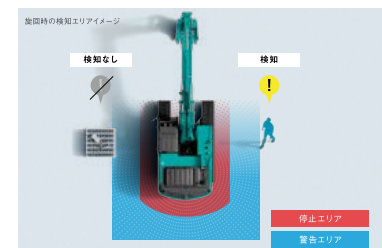
現場で働く一人ひとりの安全を守る、コベルコ建機ならではのセーフティ機能

高度な安全技術で作業リスクを低減し、現場で働く人の安心と事故ゼロを支える。



鳥瞰表示システム

4つの広角カメラが機体周囲360度の映像を表示し、モニターで死角の少ない視界を確保。ドライブレコーダ（オプション）による録画保存にも対応しているため、安全管理の強化にも役立つ。



周囲検知警報システム

旋回時や後進時、走行時に機械後方から右側の検知エリア内で人を検知すると、モニター表示とアラームで注意を喚起。さらに、警告や自動停止機能によって接触リスクの低減を図り、安全な現場づくりをサポートする。



領域制限機能

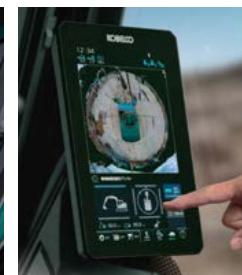
あらかじめ設定した作業範囲に近づくと、自動で動作を制限・停止。ショベルを中心に、上下・前後・左右の6面で作業領域を設定でき、電線や天井、壁、地下埋設物などの接触リスクを低減。狭い現場でも安心。

4

快適な室内

オペレータの快適さ、使いやすさを徹底して追求した、理想の作業空間

オペレータの負担軽減を追求した自社開発のオリジナルシートと、直感的に操作できる大型タッチパネルを採用。
長時間の作業でも快適に集中できるキャビン空間を実現した。



コンフォートシートとタッチパネルディスプレイ

オペレータの快適性を追求したコンフォートシートを採用。身体を面で支えて体圧を分散する構造と、上下方向の振動を吸収するサスペンションにより、長時間の作業でも安定した姿勢を保つ。擦れやすい部分には耐久性に優れた合成皮革を、背中や臀部が触れる部分には通気性の高い素材を採用し、ムレを軽減。快適性と、現場で求められる耐久性を高次元で両立した。また大画面で見やすく、タッチ式で直感的な操作が可能なディスプレイも搭載。

5

機械マネジメントの向上

マシンを見守り安定稼働を支える、管理ソリューション

遠隔診断によりトラブルの早期発見と予防保全をサポートし、稼働停止のリスクを低減。
さらに、整備しやすいレイアウトを採用することで、メンテナンス性も高めた。



稼働管理システム

GPS位置情報や稼働状況、燃費、警報などの機械データを一元管理。常時モニタリングし、異常を検知した際はスマートフォンやメールで迅速に通知。早期対応と安定稼働をサポートする。



予防保全システム

通信で取得した機械データをもとに、機械の状態を日々見守り、異常を早期に発見。稼働データを自動解析し、エンジンや油圧ポンプなどの重大故障リスクを低減させる。



新型「SK200」開発メンバー座談会

建機の未来を見据えて 現場を支える新しい価値提供を

建設現場では、人手不足の深刻化やICT施工の普及など、かつてない変化が進んでいる。

こうした時代の要請に応えるため、コベルコ建機が開発したのが新型ショベル「SK200」だ。

開発陣が目指したのは、単なるモデルチェンジではない。電子制御を核とした新たなプラットフォームを構築し、ソフトウェアによって価値を高め続ける建機という、新しい発想への挑戦だった。

プロジェクトの中核を担った5人が、開発の舞台裏を振り返る。

道井 築

プロジェクト室

各部門から寄せられる要望を取りまとめ、機械としてどう実現するかを担当

西本裕章

プロジェクト室 室長

要望実現に向け技術開発本部を取りまとめるなど、プロジェクト全体の統括を担当

石田康史

商品企画部

ショベル商品開発グループ グループ長
営業、サービス、市場の声を集約・分析し、プロダクト全体の企画・推進を統括

浅野聡一郎

商品企画部

マシンガイダンスやマシンコントロールをはじめとするICT機能を担当

辻 剛平

商品企画部

このショベルをどのような価値としてお客様へ届けるか、販売戦略を担当



「建機からプラットフォームへ」 という発想

——今回のプロジェクトは、どのようにスタートしたのでしょうか。

西本：2022年頃に半年以上かけてコンセプトづくりを行い、本格的な開発がスタートしました。市場が今なにを求めているかだけでなく、5年後、10年後の建設現場がどう変化しているのかまで見据え、「これからの建機にはなにが必要か」を徹底的に議論しました。

石田：将来的には、人手不足はさらに深刻になり、ICT施工やゼロエミッションへの対応も当たり前になっていくでしょう。そうした社会の変化を踏まえ、「建機はどんな価値を提供すべきか」を営業と開発が一緒になって考えました。

——市場からは、多くの要望が寄せられたそうですね。

石田：はい。国内外のお客様から数多くの要望が寄せられました。しかし、市場や地域によって求められる内容はさまざま、そのすべてを製品に反映することは現実的ではありません。そこでお客様の価値や課題解決への貢献度を基準の一つひとつを見極め、本当に優先すべきテーマを何度も議論し、最終的には十数項目まで絞り込みました。

西本：重要だったのは、単純に機能を増やすことではありません。これからの建設現場では、オペレーター一人ひとりの負担を減らし、経験の違いを補い

このショベルが
建設現場を支える存在に
なってくれることを
願っています

(西本)



ながら能力を最大限に引き出すことが求められます。そのためにショベルはなにができるのか。その視点で開発の優先順位を決めていきました。

辻：その結果、生まれたのが「建機を進化し続けるプラットフォームへ」という考え方でした。従来は、新しい機能を追加するには部品交換や新しいモデルへの買い替えが必要でしたが、今回の開発でソフト・ハード両面のアップデートによって機能を進化させ、導入後も価値を高め続けられるショベルを目指しました。つまり、納車が完成ではなく、お客様とともに成長していく建機という発想です。

浅野：そのためには、新しい機能を載せるだけでは足りませんでした。将来どんな技術にも対応できるよう、制御システムそのものを一から見直し、新しい基盤を構築しています。今回の開発は、新型ショベルをつくるプロジェクトであると同時に、未来の建機づくりの土台を築く挑戦でもありました。

電子制御化は「目的」 ではなくスタートライン

——今回の開発では、油圧システムの電子制御化が大きな技術革新の一つだと伺っています。しかし皆さんのお話を聞いていると、それ自体が目標ではなかったようですね。

西本：その通りです。社内でも何度も議論しましたが、電子制御化そのものがお客様の価値になるわけではありません。操作方式が電子制御になることは技術的には大きな進歩ですが、お客様にとって大切なのは「それによってなにができるようになるのか」です。開発では、その視点を最後までぶれさせずに取り組みました。

道井：従来は油圧によって操作を伝えていましたが、電子制御化によってコントローラーがショベルの動きを直接制御できるようになります。その結果、人の操作だけでは実現できなかった制御や、オペレータを支援するアシスト機能が可能になります。電子制御化は、新しい価値を生み出すためのスタートラインだと考えています。

浅野：私たちが特にこだわったのは、ショベル自身が機体の状態を正確に把握できることです。ブームやアーム、バケットが今どこにあり、どのような姿勢で動いているのかを高精度で認識できれば、高度な制御は実現できません。そのため、新しいセンサーや制御ロジックを一から構築しました。

道井：言い換えれば、ショベルが「自

この建機で良かった
と思っただけなのが
なによりうれしいですね

(石田)



身の動きを理解できる」ようになったということです。この基盤があるからこそ、新たに搭載したアシスト機能だけでなく、将来の遠隔操作や自動運転といった技術にも発展させることができます。今回の開発で最も重要だったのは、目の前の機能だけではなく、その先の可能性まで見据えた土台をつくることでした。

コベルコ建機だからこそ、自分たちでつくる

——ICT機能については、自社開発にも力を入られたそうですね。

浅野：これまでは外部メーカのシステムを組み合わせることが中心でした。しかし、その方法では私たちが理想とする操作感や制御を細部まで追求することは難しかったのです。マシンコントロールを自社開発することで、ショベルメーカとして目指す動きを、自分たちの手でつくり込めるようになりました。

西本：私たちは油圧ショベルメーカです。だからこそ「自分たちの機械は自分たちで動かす」という想いがありました。もちろん外部パートナーとの協力は欠かせませんが、機械の動きを最終的に決めるのは自分たちでありたい。その考えが、今回の開発の根底にあります。

——新しい機能を開発する上では、評価基準を決めることも難しかったそうですね。

操作性への
徹底したこだわり、
その想いのお客様にも
伝えられたいです

(浅野)



道井：既存の機能であれば比較対象がありますが、新しい価値には「正解」がありません。例えば、どこまで操作をアシストすれば自然に感じてもらえるのか、減速制御はどのタイミングが最も違和感がないのか。数値だけでは判断できない部分が多くありました。

辻：他社と同じ機能を並べるだけでは意味がありません。お客様が「使いやすい」「作業が楽になった」と自然に感じられることが大切です。そのため営業、開発、商品企画が何度も議論を重ね、「コベルコ建機らしい価値とはなにか」を突き詰めていきました。

西本：今回私たちがつくったのは、一つの新機能ではありません。これから先、お客様の声を反映しながら機能を進化させ続けられるプラットフォームです。建設現場がどのように変化しても対応できる土台を築けたことが、このプロジェクトの大きな成果だと考えています。

「すごい技術」ではなく、
「自然に使える技術」を

——今回のショベルは、多くの新機能を搭載していますが、完成までには実際のオペレータにも評価していただいたそうですね。

石田：はい、国内外のお客様に試乘していただき、率直なご意見を数多くいただきました。私たちが確認したかったのは、「現場で本当に役立つか」ということです。もちろん最初から高い評価をいただけたわけではありません。「振動が気になる」「動きが少し遅い」「もっと自然な操作感にしてほしい」といった厳しい声もありました。そうした一つひとつのご意見を開発部門へフィードバックし、改善を重ねていきました。

浅野：評価にご協力いただいた方々のなかには、他社のICT施工機を日頃から使いこなしているオペレータの方も数多くいらっしゃいました。期待値が高い分、求められるレベルも高くなります。その声を受けて制御を調整し、再び現場で評価していただく。その繰り返しでした。

西本：私たちが目指したのは、「すごい技術」を見せることではありません。オペレータが乗った瞬間に「なんだか作業しやすい」「前より疲れにくい」と、自然に感じてもらえること。それが理想でした。高度な制御を意識させない自然な使いやすさこそ、本当に価値のある技術だと考えています。

辻：商品企画部としても同じ想いです。どれほど優れた技術でも、現場で使われなければ意味がありません。新しい機能を搭載すること自体が目的ではなく、お客様の仕事を少しでも楽にし、安全性や生産性の向上につなげる。それが今回の製品づくりの基本的な考え方でした。

部門を超えて一つの答えをつくる

——最後に、このプロジェクトを振り返っての想いをお聞かせください。

道井：お客様にはこれまでも近い将来の現場の姿、そこで必要となるであろう機能を見越して建機を導入していただいていたと思います。しかし今回の新型「SK200」の開発を通して構築した電子制御プラットフォームは、その時間軸をさらに延長する、あるいは今後主流となる機能を予測されるリスクから解放するものだと思います。現場での使い方や社会の変化に合わせて、機械そのものが進化していける。そのベースが築けたと思っています。

浅野：電子制御化や高精度な姿勢認識も、そのための基盤技術です。遠隔操作や自動運転、新しいアシスト機能な

私たちが提案する
新しい価値を
実感していただける製品を
届けたいですね

(辻)



SK200

ど、これから生まれる技術もこのプラットフォームがあるからこそ実現できます。今回完成したのは、一つの機能ではなく未来へつなげる仕組みそのものだと考えています。

石田：国内外のお客様の声、営業の視点、設計の考え方。それぞれ立場は異なりますが、「もっと良い機械をつくりたい」という想いは全員に共通していました。異なる意見を1つの製品へまとめ上げるのは簡単ではありませんでしたが、その積み重ねが今回のショベルの完成につながったと思います。営業がお客様の声を届け、開発が技術で応え、商品企画が市場価値へとつなげる。それぞれの専門性を持ち寄った

からこそ、これまでにない価値を形にすることができました。

西本：私たちが完成させたかったのは、一台の新型ショベルではありません。建設現場はこれからも、人手不足への対応やICT施工、自動化、カーボンニュートラルなど、大きく変化していきます。その変化に応え続けられる建機を、お客様とともにつくりたい。そのためのプラットフォームを築けたことが、このプロジェクト最大の成果です。

ショベルは、納車された瞬間がゴールではない。現場で使われ、お客様の声を取り込みながら成長を続ける。その新しい建機のあり方こそ、今回のプロジェクトが目指した未来です。

電子制御は
ゴールではなくスタート。
今後も新たな価値を
提供していきたいですね

(道井)





レンタル開始でより身近に！

K-DIVE®で遠隔施工のある日常を

土木建設業界では深刻な人手不足や高齢化が進み、生産性向上は喫緊の課題となっている。こうしたなか、コベルコ建機が展開する重機の遠隔操作システム「K-DIVE®」は、新たな段階へ進もうとしている。その象徴が、遠隔施工をより手軽に利用できるレンタル事業の推進だ。

山田高弘 = 取材・文 三浦泰章 = 撮影(人物)
text by Takahiro Yamada / photographs by Yasuaki Miura

遠隔施工を“使える技術”へ

これまで「K-DIVE®」は産業廃棄物処理、金属リサイクル、再生砕石など主に固定ヤードを中心に導入が進められてきた。しかし転機となったの

が、2024年に国土交通省が発表した「i-Construction 2.0」だ。「ICT施工に加え、遠隔施工や自動施工の活用が本格的に推進される方向性が国から示されたことで、コベルコ建機では土木分野への展開を本格的に考えるようになりました」と、コベルコ建機日本DXソリューション部の奥本昂平は語る。

大きな後押しとなったのが通信環境の進化だ。かつては安定したネットワークの確保が難しく、遠隔施工の導入を阻む要因となっていた。しか

し近年は衛星通信技術の発展により、土木現場でも安定した通信環境を構築できるようになった。

こうした社会背景のもと新たに始めたのが、K-DIVE®のレンタル事業である。従来、遠隔施工の導入には高額な初期投資が必要だった。興味をもちながらも導入に踏み切れないお客様も少なかったという。そこで同社は、必要な期間だけ利用できるレンタルスキームを構築。遠隔操作用ショベル、コックピット、通信機器をセットで提供することで、導入ハードルを大きく下げた。「土木現場ではレンタル需要が高く、

まずは現場で試したいというニーズがあります。レンタルなら初期投資を抑えながら効果を検証できます」と話すのは、コベルコ建機DXソリューション事業本部の星野真吾だ。実際、レンタル提供を開始してから問い合わせは大きく増加しているという。これまで導入をためらっていたお客様からも具体的な相談が寄せられ、現場単位での利用検討が進んでいるという。

遠隔施工を一部の先進企業だけの“特別な技術”から“現場で使う当たり前の選択肢”へ。その第一歩として、K-DIVE®のレンタル事業は大きな役割を担うはずだ。

グループ丸で普及を支える

新しい技術を市場に浸透させるには、優れた製品だけでは不十分だ。現場の課題を理解し、営業や開発部門と連携しながら価値を伝えていく役割が欠かせない。K-DIVE®の普及に関しても、営業現場から市場を見つめるコベルコ建機日本と、新事業の展開を担うコベルコ建機それぞれの強みを活かした取り組みが重要となる。

奥本は、営業一筋のキャリアを歩んできた。販売会社での営業や広域レンタル事業、営業所長などを経験し、現在は全国の営業活動を支援しながらK-DIVE®の普及に取り組む。

「これまではお客様と直接向き合う営業が中心でした。今は全国の営業担当をサポートするとともに、メーカーと販売現場をつなぐ役割も担っています」

一方、星野は、ICT関連ソリューション分野で営業や現場サポートに携わってきた経験をもつ。現在は、新技術やサービスを市場へ展開する立場からK-DIVE®の事業拡大を推進している。「DXソリューション事業本部の役割は、開発部門が生み出した技術を社会

に届けること。営業や販売店様との連携を強化しながら、お客様の声を採り入れ、サービスを育てています」

遠隔施工は、機械を販売して終わりではない。通信環境の構築や運用方法の提案、導入後のサポートまで含めた総合的な支援が求められる。そのため両社は営業担当とともに現場を訪問し、展示会や体験会を通じて実際の価値を伝える活動にも力を入れている。「実機を操作していただくと、お客様の反応は大きく変わります。遠隔施工の可能性を体感していただくことが普及への近道だと感じています」（奥本）営業現場に寄り添うコベルコ建機日本と、新事業を創出するコベルコ建機。両社の連携が、K-DIVE®を現場の課題を解決するソリューションへと育て、その普及を力強く後押ししている。

土木から解体へ、そして自動化へ

K-DIVE®の可能性は、遠隔施工そのものにとどまらない。奥本、星野の2人が見据えるのは、建設現場全体の変革だ。

現在、遠隔施工市場には建機メーカーやレンタル会社、ゼネコンなど多くの企業が参入している。そのなかで、コベルコ建機の強みを「豊富な実績」と「現場で培ったノウハウ」だと奥本は語る。

「固定ヤードで先行して導入を進めてきたことで、多くの活用事例を蓄積できました。それが今の提案力につながっています」

さらに、今回のレンタルサービスでは、遠隔操作に加えてコベルコ建機が提供するICT施工ソリューション「ホル



コベルコ建機
DXソリューション事業本部
DXプロジェクトグループ
星野真吾

ナビ」で培われてきたマシンガイダンス機能を標準搭載。遠隔操作だけでは難しい掘削深度の把握や施工精度の向上を実現し、生産性向上につなげている。

今後期待される分野として挙がっているのが解体現場だ。コベルコ建機はもともと解体分野に強みを持っており、危険を伴う環境での遠隔操作は安全性向上に大きく貢献する。万が一の事故が起きても人が危険な場所にいなければ被害を防げるという点で、遠隔施工の本質的な価値は安全性にあるといえるのだ。

さらに、将来を見据えるとAIとの連携も視野に入る。画像解析による現場判断や自動施工など、次世代技術との融合によってK-DIVE®はさらに進化していく可能性を秘めている。

「今は遠隔化ですが、この先は自動化の時代が来ると思います。その流れをいち早く形にしていきたいですね」（星野）

建設現場の未来を変える挑戦は、すでに始まっている。コベルコ建機はK-DIVE®でその最前線に立ち、お客様とともに新たな建設業の姿を描こうとしている。



コベルコ建機日本
DXソリューション部
K-DIVE推進グループ長
奥本昂平



石川組は、コベルコ建機の林業専用機12台を保有。プロセッサやグラップルなどを使い分け、多様な林業作業に対応している



経営のヒント

持続可能経営編

秋田県鹿角市
株式会社 石川組

林業を成長の柱に、持続可能な森林経営を実践

秋田県鹿角市に本社を構える株式会社石川組は、土木・建築・林業の3事業を展開する総合建設会社だ。そのなかでも近年、大きく成長を遂げているのが林業事業である。国有林の間伐や民有林の伐採・再造林など、木材の素材生産を一貫して手がけ、県内有数の林業会社として存在感を高めている。

山田高弘 = 取材・文 三浦泰章 = 撮影
text by Takahiro Yamada / photographs by Yasuaki Miura

地域の森を、次の世代へつなぐ

石川組が手がける林業は、単に木を伐る仕事ではない。国有林では、CO₂吸収量を高めるための間伐事業を担う。一方、民有林では伐採後の再造林まで責任をもち、森林を再び育てるところまでを仕事としている。木材を搬出して終わりではなく、新しい森林を育てるところまで関わるのが、石川組の林業の大きな特徴だ。

その根幹にあるのが「森林経営計画」

である。一定規模以上の森林を所有・管理し、行政から認定を受けることで、造林事業に必要な補助制度を活用しながら長期的な森林整備を進められる仕組みだ。同社は自社所有林に加え、地域の森林所有者から管理を委託された山林も合わせて広大な森林を管理している。

森林所有者にとって、伐採後の再造林には大きな費用がかかる。その負担から伐採をためらうケースも少なくない。石川組は森林経営計画を活用し、補助制度も含めて再造林まで一括して

提案することで、森林所有者の課題を解決している。山を任せたいという相談が年々増えている理由もここにある。「今植えなければ、40年後、50年後に伐る木がなくなる」と語るのは、代表取締役社長の島崎祐男さん。

「林業は1年で成果が出る仕事ではありません。だからこそ、将来を見据えて森林を育てることが、地域の産業を守ることにもつながります」

こうした考え方は経営にも表れている。林業専用機をはじめとする建設機



“林業専用機をレンタルに頼らず
自社保有することで生産性を高め、
その利益を社員に還元するのが
うちの経営方針です”

代表取締役社長
島崎祐男さん



●今回の訪問先は
株式会社 石川組

所在地／秋田県鹿角市十和田大湯字中田1-3
☎0186-37-3041
<https://www.ishikawanet.co.jp/>



林業部で現場を任される立山嘉則さんは、土木工事の現場監督を経て林業の世界へ。そこで培った経験は、安全で効率的な作業道づくりに活かされている

コベルコ建機の林業専用機が現場を支える

急峻な斜面が広がる秋田県の山林では、高い作業能力と耐久性を備えた林業専用機が欠かせない。石川組ではSK135SRなど、コベルコ建機の林業専用機を積極的に導入し生産性と安全性の向上を図っている。

現場では立木をつかみながら枝払い、玉切りまでを1台でこなすプロセッサをはじめ、丸太を集積・運搬するグラップルなど、用途に応じたアタッチメントを装着して作業を進める。国有林の間伐から民有林の伐採、再造林まで幅広い現場で活躍し、年間を通じて大量の素材生産を支えている。

林業専用機には、狭い山林内での取り回しや、立木との接触にも耐え得る



現場では、プロセッサを装着したSK135SRが活躍。立木の枝払いから玉切りまでを一台で効率よくこなしていた

堅牢性が求められる。林業部課長でオペレータも務める立山嘉則さんは、コベルコ建機を高く評価する。「本体の剛性が高く、安心して作業できます。動きも滑らかで操作しやすく、オペレータの負担も少ないですね。油圧の力が強いので、掘削と旋回を同時に行うような複合操作でも安定感があり、アタッチメントを装着した状態でも力強く作業できます」

一方で、立山さんは「良い機械があっても、それを活かすのは人」と話す。安全で効率的な作業道を築き、次の工程まで見据えて現場を組み立てる判断力は、経験を重ねたオペレータだからこそ身につく技術だ。そのため同社では、若手育成にも力を注ぎ、高性能機械を使いこなせる人材づくりを進めている。

これからも石川組は、高性能林業機械への投資と人材育成を両輪に、森林資源を次世代へつなぐ林業を追求していく。現場で培われた経験と機械の進化を融合させながら、未来の森林づくりが着実に進められている。



経営のヒント

ワンストップ対応編

【広島県尾道市
みなと海運株式会社】

造船業の多様な要望に応える 港湾ロジスティクス企業

瀬戸内の港町・尾道。その尾道糸崎港で、鉄鋼製品を中心とした物流を担い、造船業を支えている企業がある。みなと海運株式会社だ。回漕業に始まる同社の歴史と、現場に寄り添う物流の仕事を追った。

山田高弘 = 取材・文 三浦泰章 = 撮影
text by Takahiro Yamada / photographs by Yasuaki Miura

造船業の現場を支える 物流オペレーションを提供

瀬戸内地域は古くから造船業が盛んな地域であり、なかでも広島県尾道市はしまなみ海道の起点として物流の重要拠点となっている。その尾道糸崎港で、鉄鋼製品を中心としたさまざまな製品のサプライチェーンの一端を担っているのが、今回紹介するみなと海運だ。

「当社は私の曾祖父が設立しました」と語るのは、代表取締役社長の加藤雅崇さん。「当初は、船で島々を巡り荷物を受け取り、配達する「回漕業」を営んでいたと聞いています。しかし、荷物を船から揚げる際に長く待たされることが多く、『それならば揚げる側に回ったほうがよいのではないか』という発想から事業転換を図ったそうです。1959年に現在のみなと海運となり、尾道、三原の港を拠点に港湾荷役事業を展開してきました。そして約20年前、福山の造船会社向けに厚板の取り扱いを開始したことが大きな転機となり、現在の事業の柱へと成長しています」

同社の仕事は、単に荷物を運ぶこと

台船から鉄板を荷揚げするマスターテック7120G-2A。クレーンは使い続けるのではなく、万一の故障によって作業が止まるリスクも考慮し、10年弱を目安に早めの入れ替えを行っているという



“「鉄をつくる会社」と
「鉄を使う会社」の間に立ち、
物流を円滑にするのが
私たちの役割です”

代表取締役社長
加藤雅崇さん



●今回の訪問先は

みなと海運株式会社

所在地／広島県尾道市新浜二丁目官有無番地
☎0848-23-3710
<https://minato-kaiun.com/>

だけではない。運搬から仕分け、鉄板の保管まで、造船業の物流オペレーションを一手に担っている。造船業には工程ごとの厳密な納期指定があり、それに合わせて材料となる鉄板を適切なタイミングで運送しなければならない。現場の工程と連動した、きめ細かな対応が求められるのだ。

さらに、鉄板は長さや厚みなど多様な種類があり、納入先が必要とするものを必要なタイミングで確実に届けるためには、あらかじめ細かく仕分けして保管しておくなど、高度な管理能力も欠かせない。

「私たちの仕事の主役は、あくまで製造業のお客様です。現場の状況を理解し、可能な限り要望に応えることを常に意識しています」（加藤さん）

港湾荷役で活躍する コベルコ建機のクローラクレーン

港湾荷役の現場で欠かせない設備



鉄板の玉掛け作業の様子。鉄板は一見同じように見えても、長さや厚みが微妙に異なるため、玉掛けの際には重心の取り方に細心の注意が求められる

といえば、クレーンだ。みなと海運では約30年前からコベルコ建機製クレーンを導入しており、現在は120tクラスの3台が稼働している。

「コベルコ建機のクローラクレーンは、操作性の良さでオペレータからの評価が高いですね」と話す加藤さん。実際に現

場で操作するオペレータの金口侑史さんも、その使い勝手の良さを高く評価している。

港では、仕分けした鉄板をクレーンでつり上げ、決められた場所へと運搬する。積み重ねる際には、わずかなズレも許されない。

「鉄板は限られたスペースにきれいに積み重ねていく必要があります。同じ

サイズの鉄板同士を合わせることも多く、操作する側としては非常に神経を使います。合わせるときの余裕はほんの数センチ。1センチもずらさないとつりで操作しています」（金口さん）

さらに、港湾荷役ならではの条件もある。港は風の影響を受けやすく、重量物である鉄板であっても揺れが生じることがある。そ



金口侑史さんはオペレータ歴17年。みなと海運でクレーンの免許を取得した生え抜きスタッフの1人だ

うした環境下でも、狙った位置に正確に降ろせる操作性の高さは現場にとって大きな安心材料だという。

また、金口さんが特に重要だと語るのが、旋回動作のスムーズさだ。

「私たちの仕事は、建設現場と比べても、かなり頻繁に旋

回していると思います。だからこそ、動き出しのスムーズさはとても重要です。レバーを入れた瞬間に荷が振れてしまうようでは困ります。スムーズに動き出して、スムーズに止まる。その安定した操作感が本当に助かっています」

現在、みなと海運の取り扱い貨物は造船業向けの鉄板が中心だが、将来はさらに仕事の幅を広げていきたいと加藤さんは語る。

「鉄板は当社の得意分野ですが、今後は鉄鋼製品全般の取り扱いにも対応していきたいと考えています。これまで造船業界の物流を支える役割が中心でしたが、これからは業界の枠を越え、さまざまな製品を扱える会社へと広がっていききたいですね」

瀬戸内の港で培ってきた経験と現場力を活かしながら、みなと海運は新たな物流の可能性を見据えている。



【コベルコの風】

日本全国、そして世界各国での
コベルコの活動をレポート！



Wind 1 from コベルコ建機 Kobelco

有線電動クローラクレーン 「Mastertech7200G NEO CleAir」販売開始

2026年6月15日より、有線電動クローラクレーン「Mastertech7200G NEO CleAir」（クレア）を販売開始しました。

200tつりクローラクレーン「Mastertech 7200G NEO」（エンジン搭載機）をベースに、電動化により建設現場におけるゼロエミッションに貢献する新製品です。エンジン搭載機と同等の作業性能を維持しながら、クレーン作業中のCO₂排出ゼロおよび低騒音化を実現しました。

また、クローラクレーンに多く見られる「長期稼働・低移動頻度」という運用特性を踏まえ、有線電動方式を採用し

ています。有線電動方式により継続的に受電できるため、作業の中断なく安定した稼働が可能となり、高効率で持続可能な建設現場の実現に寄与します。



製品情報はここから



Wind 4 from コベルコ建機 Kobelco

国連開発計画(UNDP)と基本合意書を締結し、「K-DIVE®」稼働を検証

コベルコ建機は、国連開発計画（United Nations Development Programme、以下UNDP）と、ウクライナの瓦礫撤去現場において、当社の重機遠隔システムと稼働データを用いた現場改善ソリューション「K-DIVE®」の稼働検証を実施することに関して基本合意書を締結しました。

この基本合意書にもとづき、UNDPと協力しながら2026年10月より、瓦礫撤去現場における「K-DIVE®」の有効性を検証していきます。



UNDP-コベルコ建機間の締結文書のお披露目。左が当社執行役員の山下耕治

Wind 5 from コベルコ建機 Kobelco

「K-D2 PLANNER®」の最新バージョンをリリース

3D-CAD（Autodesk社製「Revit」）のクレーン施工計画策定支援ソフト「K-D2 PLANNER®」のver.1.6をリリースしました。

今回のバージョンアップでは、揚重可能な範囲の資材をまとめて可視化する「揚重一括判定」、工区設定を簡単に行える「フェーズ一括割り当て」、そしてクラウドを含めた任意の保存先を指定できる機能が追加されました。これにより、施工計画の検討や情報共有にかかる時間を削減できます。ぜひお試しください。



揚重可能な範囲の資材をまとめて可視化する「揚重一括判定」

Wind 2 from コベルコ建機 Kobelco

建物解体現場における「K-DIVE®」活用のための共同検証契約を締結

コベルコ建機は、三同建設（株）と、建物解体現場における重機の遠隔操作システム「K-DIVE®」活用のための共同検証契約を締結しました。

共同検証を通じて、「K-DIVE®」を建物解体現場で利用するにあたっての特有リスクを洗い出して解消し、より効率的かつ安全に作業を行うための仕様やルールについて見極めていきます。「K-DIVE®」を活用することで、多様な人材による人手不足の解消、生産性や安全性の向上などの実現に貢献していきます。



大阪・関西万博での稼働実績：通信衛星（Starlink）を用いた「SK135SRD-7」解体仕様機の遠隔操作

※Starlinkは米国SpaceX社の登録商標です。



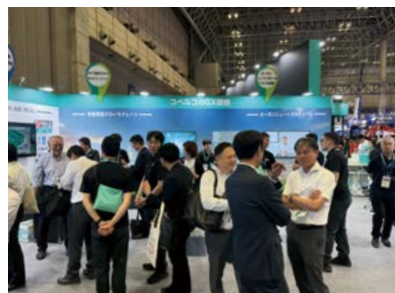
Wind 3 from 千葉 Chiba

「第8回 国際 建設・測量展（CSPI-EXPO2026）」に出展しました

2026年6月17～20日、「第8回 国際 建設・測量展（CSPI-EXPO2026）」が幕張メッセで開催されました。建設・測量分野における最新技術や製品、サービスが一堂に会する国内最大級の展示会です。

展示ブースは昨年から場所を変更し、建機メーカーが集結するエリアに出展。実機やパネル展示はもちろん、ステージでのプレゼンや特別セミナーも開催しました。

最終日の土曜日は一般公開されました。建設機械や仕事内容についての説明のほか、塗り絵コーナーやショベル



多くの来場者でにぎわうブース

ラベル貼り体験など、子どもたちも楽しめる企画を多数用意し、多くのご家族にご来場いただきました。

Wind 6 from 東京 Tokyo

「GiGO EXPO 2026」に「K-DIVE®」を初出展しました

2026年6月20・21日、ベルサール秋葉原で開催された体験型エンターテインメントイベント「GiGO EXPO 2026」に、当社の重機の遠隔操作システム「K-DIVE®」を出展しました。

「GiGO EXPO」は、ゲームやアニメ、音楽などをテーマに、ファンやパートナー企業が交流する大型イベントです。当社グループにとって、このような異業種イベントでのPRは初の挑戦となりました。

当社ブースでは「K-DIVE®」シミュレータ体験や、約500km離れた場所にある実機を遠隔操作するライブデモンストレーションなどを実施し、建設業に関わりの方や若年層を含む多くの来場者にご参加いただきました。



多くの方にシミュレータを体験いただきました

Wind 7 from コベルコ建機 Kobelco

DXソリューション事業本部を新設

コベルコ建機は、2026年7月1日、お客様のDXをサポートする新規事業を創出し、収益の柱の1つとなるよう機動的に成長させることを目的に「DXソリューション事業本部」を新設しました。

当社は製品だけでなく、コトビジネスの分野における新規事業の創出にも注力しており、2020年に専任で遂行する部署として「新事業推進部」を発足させ、「K-DIVE®」「K-D2 PLANNER®」の提供を開始。着実に導入事例を増やしています。

また、2024年4月には国土交通省より「i-Construction2.0」が発表され、建設現場のオートメーション化に向けた方針が示されたことで、2030年に向けて関連製品・サービスの需要拡大が見込まれています。

こうした事業環境の変化を成長機会ととらえ、組織体制強化として「新事業推進部」を再編し、「DXソリューション事業本部」の新設に至りました。当社が大切にしている「ユーザー現場主義」のもと、DXを通じてお客様の生産性向上に貢献する製品・サービスを創出していきます。

読者の広場

Fun! Fan! コベルコニュース

夢を実現

子どもの頃から重機に乗るのが夢。親の後を継ぎ、自然と重機を運転するようになりました。少しでも上手になるよう、日々考えながら乗車しています。子どもが憧れる運転手になれたかな？ 日々精進。

兵庫県 匿名希望

大根と重機

中古のSK008を購入し、今年で4年目です。大根づくりに役立っています。

新潟県
阿部 淳さん

パワーが魅力

当社でSK1300を所有しています。この重機はパワーがすごく、大きな現場でとても重宝しています。

静岡県・(株)トゥースリー
鈴木聖也さん

機械の安全性向上に感謝

岩手県では、2025年の県内建設業における労働災害による死亡者数ゼロを達成。記録が残る1950年以来初とのこと。これは私たちの安全意識だけでなく「機械の安全性や使いやすさが年々向上しているおかげだね」と会社で話題になりました。

岩手県 匿名希望

新潟県・(株)べんり屋Z
山倉一真さん

就業人口減少という課題への解

遠隔操作で複数の建機を切り替え、現場に行かず、安全快適に仕事ができる環境になれば、若い人も、年配の人も一緒に仕事ができる。そんな時代が訪れればよいと思います。

徳島県 匿名希望

ユーザー 現場主義
青森県・(株)川端重機興業
西山朝昭さん

企画提案!

「コベルコの建機の一生」というテーマで、工場出荷からスクラップになるまでの生涯物語をやってほしいです。世界で活躍するコベルコ建機！

千葉県・(株)アテックス
山梨英樹さん愛媛県・(株)伊予ブルドーザー建設
久保耕介さん

楽しいイラスト、すてきな写真大募集!

読者の広場は皆様からの投稿で構成しています。本誌への感想や、身近で起こったできごとなど、お気軽にお寄せください。また、同時にイラストやお写真も募集しています。採用された方には、すてきなプレゼントを進呈いたします。ぜひご投稿ください。メールでのご投稿もお待ちしております。

※いただいたご意見・ご感想は、誌面掲載の都合により、文意を損なわない範囲で編集させていただきます。あらかじめご了承ください

※メールには、会社名、所在地、電話番号、氏名、匿名希望の方はその旨を必ずご記入ください

※ご投稿いただいた内容は、本誌以外にHP、SNSなどに掲載させていただきます。あらかじめご了承ください

✉ Kobelconews-shm@kobelco.com

公式アカウントで
投稿が紹介されるかも

#コベルコのある風景

#コベルコ建機

#コベルコ

Instagram

投稿募集中



公式アカウント▶

PRESENT

[プレゼント]

クロスワードパズル正解者のなかから抽選で次の賞品を進呈いたします。ふるってご応募ください。

※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます

3
名様

A賞

SK135SR-7 ミニチュア

Performance x DesignにもとづいたSK135SR-7のスタイリッシュなデザインを精巧に再現しています。アームの可動部もスムーズで、キャブの内装も細部までこだわってつくりこんでいます。1/50スケールのミニチュア。

1
名様

B賞

エアウィーヴ キャリークッション mini

適度な反発力と優れた体圧分散で、長時間の座り疲れを軽減するクッション。ご家庭やオフィスで、また移動時や外出先でも活躍。二つ折り可能で、折りたたみ時はA4サイズになり、キャリーバッグつきなので持ち運びも便利です。

CROSSWORD PUZZLE

[クロスワードパズル]

タテ・ヨコのカギをヒントにマス目を埋めてください。

二重マス目の文字を並べ替えてできた言葉を

専用はがきの解答欄（または、はがき）にご記入ください。

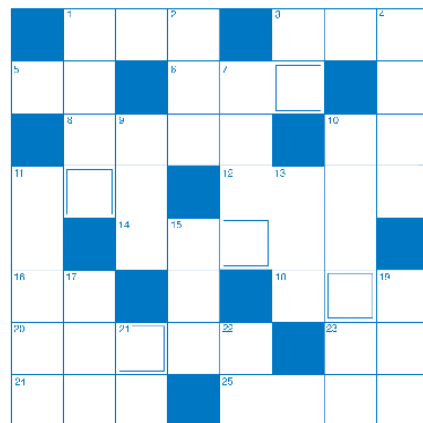
- ご応募の締め切り: 2026年10月23日(金)(消印有効)
- あて先: 〒108-8688 東京都港区高輪2丁目22番1号 THE LINKPILLAR 2
コベルコ建機(株)コベルコ建設機械ニュース編集室

[Web応募フォーム]
PC・スマートフォンからも
お気軽にご応募いただけます!



※ご記入いただいた個人情報
は、当選者へのプレゼ
ントの発送と読者の広場
ページへの掲載以外の目
的では使用いたしません

<https://www.kobelco-kenki.co.jp/inquiry/knews/index.php>



ヒント: 最先端技術を搭載して登場

答え:

タテのカギ

- 1 手を使って人を呼び寄せるジェスチャー
- 2 赤い「アンタレス」が目印、夏の南の空の「○○○座」
- 3 並外れていること。「○○外れ」
- 4 エスプレッソやラテアートを手がける職人
- 7 あるかないかギリギリのわずかな財産。「○○○○のお金」
- 9 秦の始皇帝が築いた「○○○の長城」
- 10 滑舌と正確な発音が求められる放送局の顔
- 11 オープンな組織の雰囲気。「○○○○○がいい」
- 13 正義のために自ら志願して戦う「○○○兵」
- 15 スギナの胞子茎。漢字で書くと「土筆」
- 17 「○○○中央新幹線」が開業すれば、東京-名古屋間は約40分に
- 19 音符が並ぶ、演奏者のための道しるべ
- 21 「センター」「五番」「商店」につく共通した言葉は?
- 22 平安時代から伝わる、蹴って遊ぶ丸い玩具

ヨコのカギ

- 1 ふく刺しの別名。関西ではこう呼ぶ
- 3 「マイルチャンピオンシップ」「京都金杯」「日本ダービー」といえば
- 5 玄関や台所にあり、床を張らずに土足で入れる空間
- 6 ベートーヴェンの「月光」「悲愴」など、複数楽章からなる器楽曲の形式
- 8 納豆や山芋に共通する、糸を引くような性質
- 10 他人の災難を他人事と思うという戒め。「○○は我が身」
- 11 無料アプリやゲームで「○○○○」して、追加機能やアイテムをゲット
- 12 刃と柄が特徴的な武器。女子の武道としても人気
- 14 この日を境に、暑中見舞いが残暑見舞いになる
- 16 キウイ、シマエナガ、ハシビロコウといえば
- 18 船を通すために人工的に掘られた水路
- 20 きびだんごを携えた桃太郎が目指した場所
- 23 問題を解決するための手立て。「○○を講じる」
- 24 練習の成果を出す場、スポーツにおける本番
- 25 先発のあとを継ぐ「抑え」や「中継ぎ」投手の総称

Vol.271 クロスワードパズル 正解発表

イ	ト	コ		エ		キ	リ
ド		タ	マ	ツ	キ		ニ
	シ	ツ	チ		カ	シ	ユ
サ	ヤ		コ	レ	ク	タ	ー
バ	ン	ゴ	ウ	フ	ダ		ア
	ソ	ウ	バ		オ	イ	ル
レ	ン	ガ		ノ	レ		
イ		イ	ブ	シ		シ	ム

正解は

「

フキノトウ

」

でした。

多数のご応募ありがとうございました。

編集後記

今号は特集のボリュームを増やし、新型機「SK200」をたっぷりご紹介しています。開発に携わったメンバーの想いや製品化までの歩み、さらに機能や性能の特長など、さまざまな視点からその魅力をお届けしました。SK200に込められたこだわりや工夫も感じていただける内容となっていますので、ぜひご覧ください! 9月に入ってもまだまだ厳しい暑さが続きそうですね。こまめな水分補給や十分な休息を心がけ、体調管理には十分お気をつけください。今後も皆様に役立つ情報をお届けしてまいりますので、引き続きよろしく願いたします! (K.K)

コベルコ建設機械ニュース 夏季号 2026年9月 Vol.272

発行: コベルコ建設機械ニュース編集室

企画・編集: 日経BP/日経BPコンサルティング/リミックス